

平成 31 年度入試（平成 30 年度実施）の情報開示  
 解答例又は出題意図について

入試の区分	一般入試（前期日程）
学部学科等	人文学部
教科・科目名	国語／国語総合
正解・解答例 又は出題 （面接）意図	<p>（解答例又は出題意図）</p> <p>①</p> <p>『メ切本』（左右社、平成 28 年 8 月）から、三つの文章（上林暁「メ切哲学」、池井優「締め切りと枚数は守れ」、吉村昭「早くてすみませんが……」）を選び、それについて設問した。複数の文章を読み比べて、それぞれの文章の特徴を押さえ、共通点や差異を読み取ることが、解答を導き出す鍵となる。</p> <p>問 1 ア 便宜 イ 喜怒哀楽 ウ 督促 エ 保養 オ 畏敬 カ 傑作          キ しょうぶん ク よせ ケ 旺盛 コ きょくりよく</p> <p>問 2 i エ [イ] ii ウ iii イ [エ] iv ア</p> <p>問 3（出題意図）文章の内容を正確に理解し、与えられた字数で的確に表現する力を見る。</p> <p>問 4 原稿書けたか</p> <p>問 5 a 人生は短し b 芸術 [作品] c 短い [残らない]          d 人生 e ウ</p> <p>問 6（出題意図）文脈を踏まえて言葉を正確に理解し、与えられた字数で表現する力を見る。</p> <p>問 7（出題意図）日常的に用いられる言葉について、文脈にあわせて与えられた字数で的確に説明する力を見る。</p> <p>問 8（出題意図）感情表現の内実を具体的に読み取り、与えられた字数で的確に表現する力を見る。</p> <p>問 9 A イ B ウ C ア</p> <p>問 10 A ア B ウ C イ</p> <p>問 11（出題意図）複数の文章を読み比べながら共通点や差異を読み取る力、「逆説」の意味を理解し、内容を論理的に説明する力を見る。</p>

	<p>(解答例)</p> <p>2</p> <p>本居宣長『玉あられ』文の部の一節についての設問である。</p> <p>問1 a 雅語 b 俗語 c 俗語</p> <p>問2 ア まじき イ ベシ ウ ベから エ ベき</p> <p>問3A あら (ラ変動詞・未然形) ぞ (打消しの助動詞・連体形の音便) なる (伝聞・推定の助動詞・連体形)</p> <p>B に (断定の助動詞・連用形) や (係助詞) あら (ラ変動詞・未然形) む (推量の助動詞・連体形)</p> <p>問4 「侍り」という語は使うべきところを見極めて使い、丁寧なことばだとからといって濫用しないようにするという心がけ。</p> <p>問5</p> <p>②だいたい、近頃の人がこのことばをむやみに付け加えるのは代々の勅撰集をまねた誤りである。</p> <p>③その頃にはすでにその種の語の使い方などにも不案内になって、ただそれまでの勅撰集の先例の通りに書かれたのだと思われる。</p> <p>④今の世間の習慣になじまず、古えに心ひかれる人は識別すべきことである。</p> <p>問6 「侍り」は、『古今集』の詞書には少なかったが、『後撰集』以降は大幅に増える。その理由は、勅撰集は朝廷〔帝〕に奉るものなので、選者の帝への遠慮から、謙譲語・丁寧語「侍り」を多用するようになったためである。</p> <p>問7 勅命によって編纂された二十一の歌集。 天皇（・上皇）の命によって編纂された歌集。</p>
備 考	